

高島市消防本部50周年記念誌

50th ANNIVERSARY

SINCE 1972 → 2022

TAKASHIMA FIRE DEPARTMENT

高島市消防本部50周年記念誌 INDEX

- 1 あいさつ
- 2 高島市消防本部50年のあゆみ
- 3 写真で振り返る高島消防
- 4 庁舎紹介
- 5 車両紹介
- 6 各種業務
 - 警防
 - 救助
 - 救急
 - 通信指令
 - 予防
- 7 高島市消防団
- 8 高島市防火保安協会
- 9 あとがき

水と緑 人のいきかう 高島市



ごあいさつ

高島市長 福井 正明



この度、高島市消防本部は昭和47年4月の常備消防発足以来50周年を迎えることとなりました。これもひとえに地域住民の皆様をはじめ関係各位のご支援とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

高島市消防本部は「湖西広域消防本部」として発足し、現在に至るまで高島市民のみならず市内を訪れてくださる方々の安全・安心のために、職員一丸となって日夜研鑽を重ねております。

また、非常備消防として「自分たちの地域は自分たちで守る」という崇高な理念のもと組織されていまま高島市消防団につきましても、地域の防火・防災活動に多大なご努力をいただいております。

高島市では昨年に高島市地域防災計画の大幅な改訂を行うなど、近い将来発生が危惧されます琵琶湖西岸断層帯地震や南海トラフ地震をはじめ、あらゆる災害に万全の備えができるよう、日々防災体制の見直しも行っております。

日々発生する様々な災害から地域住民の皆様の生命・身体・財産を守るため、日々万全の体制で消防団を含め一丸となって災害に備えて信頼と期待に応えることができるきめ細かな消防行政の実現を目指す所存でございます。

これからも、皆様の一層のご支援、ご指導をお願い申し上げます、記念誌発行に寄せてのご挨拶とさせていただきます。

50周年を迎えて

高島市消防長 中尾 正行



この度、高島市消防本部は前身である湖西広域消防本部の設立から50周年を迎えることができました。諸先輩方や消防関係者の皆様が、これまで様々な形で高島消防の発展のためご苦勞、ご支援いただいたことに感謝申し上げます。

発足当初、1本部2署1分遣所、44名の職員でスタートし、それから半世紀、高島市の消防体制は順風に帆を上げて進展してまいりました。現在では1本部2署2分遣所で105名と拡充され、各種装備も充実し市民の生命、身体、財産を水火災、地震等の災害から保護することを目的として日夜消防活動、消防訓練に取り組んでいます。

近年、日本では震度7となる大規模地震をはじめ、各地で局地集中豪雨などの大規模な自然災害が頻発しています。このような状況の中、消防を取り巻く環境は大きく変化し消防への期待はこれまで以上に強く感じているところです。このような期待に応えるため、今後もさらなる消防力の向上、そしてさらなる消防体制の充実を図り、市民の皆様が安全で安心して生活できる高島市を目指してまいりたいと考えます。

結びにあたり、関係者の皆様のご尽力に対し改めまして感謝申し上げますとともに尚一層のご理解とご支援をお願いいたしまして、発足50周年を迎えてのご挨拶といたします。

50周年記念にあたり

高島市消防団 団長 荒木 保 秀



高島市消防本部が発足 50 周年を迎えられ、先人の消防関係者に心より敬意と感謝を表しますとともに、これを祈念しまして「50 周年記念誌」を発刊されますことに心よりお祝い申し上げます。

平成 17 年 1 月の合併により誕生した高島市消防団は、各地域消防団の組織形態を継承し地域防災の要として活動してきました。

近年の気象変化による局地豪雨などの自然災害や発生が懸念される琵琶湖西岸断層帯地震等への対応など、地域に密着した防災機関である消防団への期待は更に高まっています。

平成 25 年 12 月、『消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律』が施行され、地域住民の最も身近な消防団は、将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在であり、地域の防災リーダーとしての任務を自覚するとともに、今後も地域の皆様からの負託に対して誠心誠意努力をし、全力で応えていく所存です。

複雑多様化する災害から地域住民の皆様の安心と安全を守るため、「自分たちの地域は自分たちで守る」という郷土愛の精神のもと、消防関係者の皆様方と緊密に連携を図りながら消防団員が一致団結して精進してまいります。

皆様方には、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

50周年記念にあたり

高島市防火保安協会 会長 吉田 近 博



高島市消防本部発足 50 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

昭和 47 年の発足以来、消防職員ならびに消防団員のみなさまには昼夜を問わず、高島市民の生命・財産を守るため、火災、風水害などの各種災害対応に対し、心から感謝と敬意を表します。

当協会は昭和 53 年の創立以来、高島市消防本部と連携を密にして、広く地域社会の安全・安心に関する意識の高揚を目指して活動してまいりました。

近年、社会情勢や環境等の変化により、火災や事故等の災害が複雑かつ多様化している中で、今後予想される大規模地震や記録的豪雨の対応等、消防の役割はますます重要になると考えられます。

当協会も引き続き消防本部、地域及び事業所と関わり合いながら地域防災力の向上のためご協力させていただきます。

高島市消防本部 50 年のあゆみ

昭和 47 年

- 4 月 湖西広域消防本部設置（組合庁舎に併設）
消防職員定数 51 名
- 5 月 指令車購入
- 8 月 消防本部・北部消防署庁舎竣工式および開庁式
消防ポンプ自動車 2 台、小型動力ポンプ付積載車
救急自動車、広報車購入
日本消防協会より救急自動車の寄贈
- 9 月 総員 44 名、1 本部 2 署【北部消防署、南部消防署】
1 分遣所【朽木分遣所】にて消防業務開始
- 12 月 赤バイ購入【朽木分遣所】



昭和 48 年

- 4 月 指令車購入【北部消防署】
- 5 月 南部消防署庁舎竣工式
- 9 月 小型動力ポンプ 2 台購入【北部消防署、南部消防署】

昭和 49 年

- 1 月 救急自動車購入、救急業務開始【朽木分遣所】
- 4 月 消防職員定数 58 名
- 7 月 消防協会高島支部事務局が町村会から消防本部へ移管
- 8 月 救急自動車購入【マキノ救急分遣所】
- 9 月 マキノ救急分遣所業務開始

昭和 50 年

- 3 月 査察車購入【消防本部】
- 4 月 消防職員定数 61 名

昭和 51 年

- 3 月 滋賀県共済農業協同組合連合会から救急自動車の寄贈【消防本部】
- 4 月 消防職員定数 64 名
- 12 月 北部消防署増築工事完了

昭和 53 年

- 5 月 大津市と「消防相互応援協定」締結
- 8 月 消防ポンプ自動車購入【北部消防署】

昭和 54 年

11月 日本損害保険協会から救急自動車の寄贈【南部消防署】

**昭和 55 年**

2月 小型動力ポンプ積載車更新【朽木分遣所】

4月 消防職員定数 69 名

昭和 56 年

3月 水槽付消防ポンプ自動車購入【南部消防署】 査察車更新【消防本部】

6月 ラビットポンプ会から小型動力ポンプの寄贈

7月 小型動力ポンプ更新【朽木分遣所】

10月 消防職員定数 71 名

昭和 57 年

1月 日本損害保険協会から救急自動車の寄贈【朽木分遣所】

2月 指令車更新【消防本部】

3月 小型動力ポンプ更新【北部消防署】

8月 水槽付消防ポンプ自動車購入【北部消防署】

指令車更新【南部消防署】

**昭和 58 年**

4月 指令車更新【北部消防署】

8月 消防本部庁舎車庫改修工事、南部消防署庁舎増改築工事完了

11月 山之内製薬㈱から救急自動車の寄贈【マキノ救急分遣所】

**昭和 59 年**

8月 消防ポンプ自動車更新【南部消防署】

9月 マキノ救急分遣所庁舎増改築工事完了

**昭和 60 年**

10月 消防救急指令装置および火災情報テレホンサービス設置

昭和 61 年

2月 日本損害保険協会から救急自動車の寄贈【北部消防署】

昭和 62 年

3月 滋賀県共済農業協同組合連合会から救急自動車の寄贈【南部消防署】

8月 第 16 回全国消防救助技術大会 ほふく救出の部 入賞

昭和 63 年

9月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈【北部消防署】

**平成 2 年**

1月 小型動力ポンプ積載車更新【朽木分遣所】

5月 指令車更新【北部消防署】

8月 日本消防協会から救急自動車の寄贈【朽木分遣所】

平成 3 年

9月 消防本部兼北部消防署庁舎増改築工事完了

10月 消防救急指令台等移設工事完成

12月 救助工作車購入【北部消防署】

平成 4 年

1月 消防救助隊発足

3月 緊急通報受信センター運用開始

滋賀県共済農業協同組合連合会から救急自動車の寄贈【マキノ救急分遣所】

8月 指令車更新【消防本部】

**平成 5 年**

3月 指令車更新【南部消防署】

4月 消防職員定数 82 名

8月 日本消防協会から広報車の寄贈【消防本部】

平成 6 年

2月 水槽付消防ポンプ自動車更新【南部消防署】

3月 査察車更新【消防本部】

4月 消防職員定数 87 名

11月 救急自動車更新【北部消防署】

平成 7 年

1月 阪神淡路大震災 広域応援として出動
(1隊 救助隊 延べ 10 名)

2月 資器材運搬車購入【消防本部】

**平成 8 年**

3月 消防本部・北部消防署合同庁舎竣工

消防緊急通信指令施設更新

4月 消防職員定数 92 名

11月 高規格救急自動車購入【北部消防署】



平成9年

- 1月 高規格救急自動車、救急救命士2名により救急業務開始



平成10年

- 2月 南部消防署庁舎竣工、水槽付消防ポンプ自動車更新【北部消防署】
9月 小型動力ポンプ更新【北部消防署】
10月 携帯電話等119番受信転送システム運用開始、救急自動車更新【朽木分遣所】



平成11年

- 10月 湖西地域広域市町村圏事務組合解散
11月 湖西広域連合発足
12月 朽木分遣所庁舎竣工、高規格救急自動車更新【南部消防署】



平成12年

- 4月 滋賀県防災航空隊へ職員の派遣開始

平成13年

- 1月 消防ポンプ自動車更新【南部消防署】



平成14年

- 7月 緊急消防援助隊に消火隊1隊、救急隊1隊を登録
11月 高規格救急自動車購入【朽木分遣所】



平成15年

- 9月 指令車更新【南部消防署】
12月 マキノ救急分遣所庁舎竣工

平成16年

- 10月 平成16年台風23号兵庫県豊岡市水害
緊急消防援助隊滋賀県大隊として出動（1隊 救助隊 延べ5名）
11月 指令車更新【北部消防署】
高規格救急自動車購入【マキノ救急分遣所】
12月 湖西広域連合解散



平成17年

- 1月 高島市発足に伴い、名称を高島市消防本部に変更 消防職員定数100名
敦賀美方消防組合と「消防相互応援協定」を締結
2月 平成16年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文 会長賞（秀賞）受賞
8月 第34回全国消防救助技術大会 ロープ応用登はんの部 入賞
9月 査察車更新【消防本部】

平成18年

- 2月 高規格救急自動車更新【北部消防署】
平成17年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文 会長賞（秀賞）受賞
4月 湖北地域消防組合と「消防相互応援協定」を締結
8月 第35回全国消防救助技術大会 ロープ応用登はんの部 入賞
9月 京都市と「消防相互応援協定」を締結

平成19年

- 3月 能登半島地震 緊急消防援助隊滋賀県大隊として出動
（2隊 消防隊・救急隊 延べ8名）
8月 第36回全国消防救助技術大会 はしご登はんの部 入賞

平成20年

- 3月 消防緊急通信指令施設改修
8月 第37回全国消防救助技術大会 ロープ応用登はんの部 入賞

平成21年

- 2月 高規格救急自動車更新【南部消防署】
3月 消防ポンプ自動車更新【北部消防署】
8月 第38回全国消防救助技術大会 はしご登はんの部 入賞
9月 若狭消防組合と「消防相互応援協定」を締結



平成22年

- 3月 小型動力ポンプ付積載車から消防ポンプ自動車に更新【朽木分遣所】
4月 消防職員定数105名、財団法人日本消防協会へ職員派遣

平成23年

- 2月 財団法人日本消防協会から消防指令広報車の寄贈
3月 東日本大震災緊急消防援助隊滋賀県大隊として出動
（3隊 消防隊・救急隊・後方支援隊 延べ43名）



平成24年

- 3月 救助工作車（Ⅱ型）更新【北部消防署】
8月 第41回全国消防救助技術大会 ほふく救出の部 入賞



平成 25 年

- 2月 滋賀県内6消防本部と「消防相互応援協定」を締結
- 9月 台風18号豪雨災害 滋賀県に全国初の特別警報 鴨川決壊等の甚大な被害が発生



平成 26 年

- 3月 消防救急デジタル無線整備 水槽付消防ポンプ自動車（C A F S付）更新【南部消防署】
- 4月 京都中部広域消防組合と「消防相互応援協定」を締結



平成 27 年

- 3月 高機能消防指令センター運用開始 高規格救急自動車更新【朽木分遣所】 航空自衛隊饗庭野分屯基地と「消火活動の相互支援に関する協定」を締結 陸上自衛隊今津駐屯地と「消火活動の相互支援に関する協定」を締結
- 4月 滋賀県消防学校へ職員派遣
- 10月 滋賀県警察本部、滋賀県内6消防本部と「警察消防相互応援協定」を締結



平成 28 年

- 3月 高規格救急自動車更新【マキノ救急分遣所】
- 9月 滋賀県防災航空隊との連携訓練

平成 29 年

- 2月 資器材搬送車（昇降装置付）更新【消防本部】
- 3月 高規格救急自動車更新【北部消防署】
- 8月 第46回全国消防救助技術大会 ほふく救出の部 出場



平成 30 年

- 7月 平成30年7月豪雨災害 緊急消防援助隊滋賀県隊として出動（3隊 消防隊・救急隊・後方支援隊 延べ15名）

平成 31 年

- 2月 平成30年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文 会長賞（秀賞）受賞 滋賀県から原子力防災活動車両として資器材搬送車の貸付
- 3月 高規格救急自動車更新【南部消防署】

令和 元年

- 12月 高規格救急自動車更新【北部消防署】 水槽付消防ポンプ自動車（13mブーム、C A F S付）更新【北部消防署】



令和 2 年

- 1月 日本国内で初の新型コロナウイルス感染症が確認される
- 3月 新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言発令

令和 3 年

- 6月 新型コロナウイルス感染対策資機材（アイソレーター）の整備



令和 4 年

- 3月 消防ポンプ自動車更新【南部消防署】
- 8月 第50回全国消防救助技術大会 ほふく救出の部 出場

歴代消防長

初代	昭和47年 4月1日～昭和49年6月30日	川村 巽
2代	昭和49年 7月1日～昭和53年3月31日	河原田 友造
3代	昭和53年 4月1日～昭和55年3月31日	青井 金次郎
4代	昭和55年 4月1日～昭和59年3月31日	前田 庄右エ門
5代	昭和59年 4月1日～昭和63年3月31日	保井 俊一
6代	昭和63年 4月1日～平成元年3月31日	岡本 正
7代	平成元年 4月1日～平成11年3月31日	又川 善男
8代	平成11年 4月1日～平成13年9月30日	寺田 藤一
9代	平成13年10月1日～平成21年3月31日	饗庭 由雄
10代	平成21年 4月1日～平成25年3月31日	山下 勇
11代	平成25年 4月1日～平成26年3月31日	川妻 郁夫
12代	平成26年 4月1日～平成28年3月31日	藤田 昭
13代	平成28年 4月1日～平成30年3月31日	笠原 米和
14代	平成30年 4月1日～令和2年3月31日	吉里 定晴
15代	令和2年 4月1日～	中尾 正行



写真で振り返る高島消防



未来へつなぐ 消防魂



消防庁舎

高島市消防本部・北部消防署

高島市今津町日置前5150番地



朽木分遣所

高島市朽木市場723番地1



マキノ救急分遣所

高島市マキノ町西浜321番地



高島市南部消防署

高島市安曇川町青柳696番地1



車両紹介



50th ANNIVERSARY
TAKASHIMA FIRE DEPT.

since 1972



警 防

警防業務は、市民の生命、財産を火災等から保護し、その被害を軽減することを目的とし、火災等を警戒、鎮圧し、防除するために行う活動です。近年、建物構造、住民の生活様式の多様化等による社会情勢の変化に伴い、火災などの災害が複雑化しています。これらの災害に対応するため、日々訓練を実施し専門的知識と技術の習得に努めています。



建物火災現場活動



車両火災現場活動



工場火災現場活動



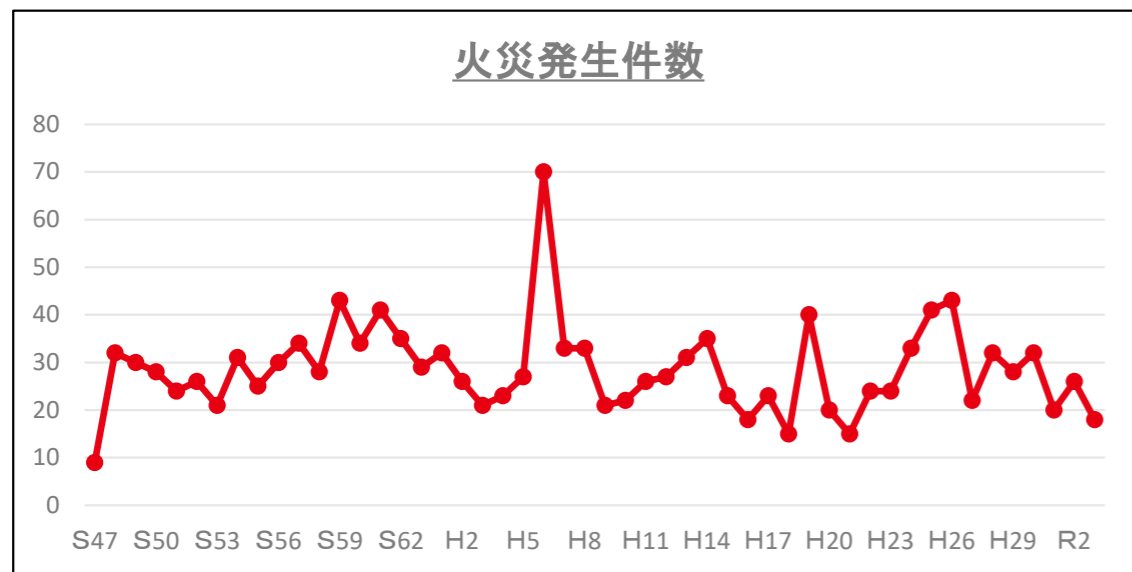
火災総合訓練



火災中継訓練



指揮支援訓練



救 助

救助業務は、災害や事故により生命または身体に危険が及んでいる要救助者を安全な場所に救出し、救護することを目的としています。

救助隊は、あらゆる危険性の中において、災害状況を冷静機敏に判断し、知識・技術・資機材を十分に活用して人命救助を最優先し活動しています。

北部消防署に特別救助隊を配置し、市民の信頼と期待に応えられるよう救助体制の充実強化に努めています。



交通救助現場活動



転落事故現場活動



ガス酸欠現場活動



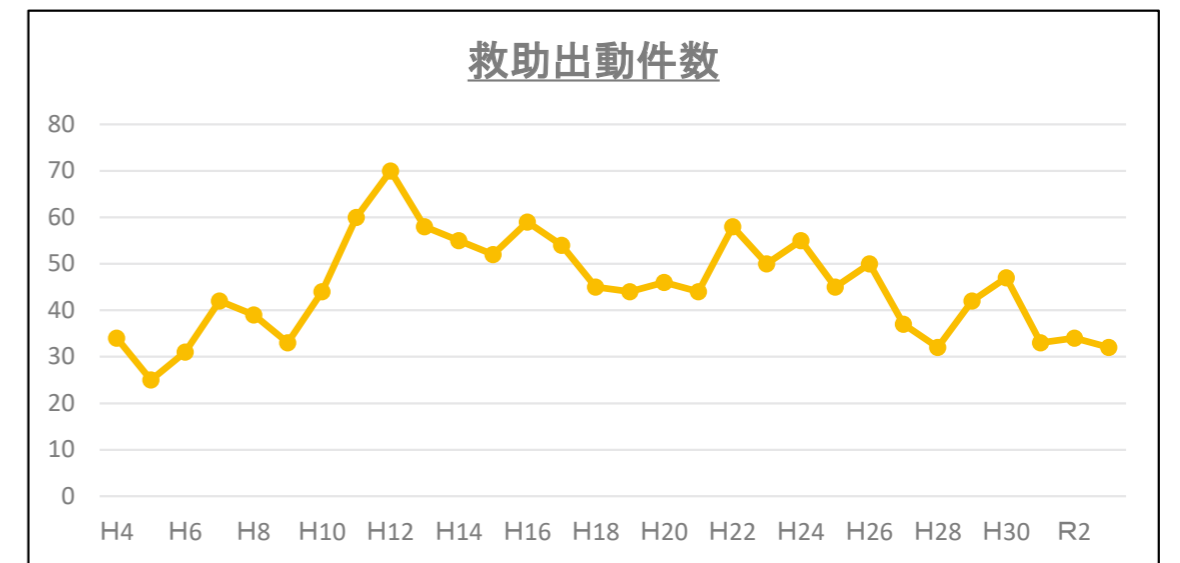
倒壊建物救助訓練



水難救助訓練



救助技術指導会訓練



救急

救急業務は、救急業務開始以来、救急出動件数は増加傾向にあります。社会情勢の変化に伴い、高度化・多様化への対応が求められています。尊い命を救い、救命率を向上させるために、応急手当の普及啓発や救急救命士を中心に救急隊員の専門教育の強化、高度救命資器材の整備など救急体制の充実を図っています。



ドクターヘリとの連携



DMA T連携訓練



事業所連携訓練



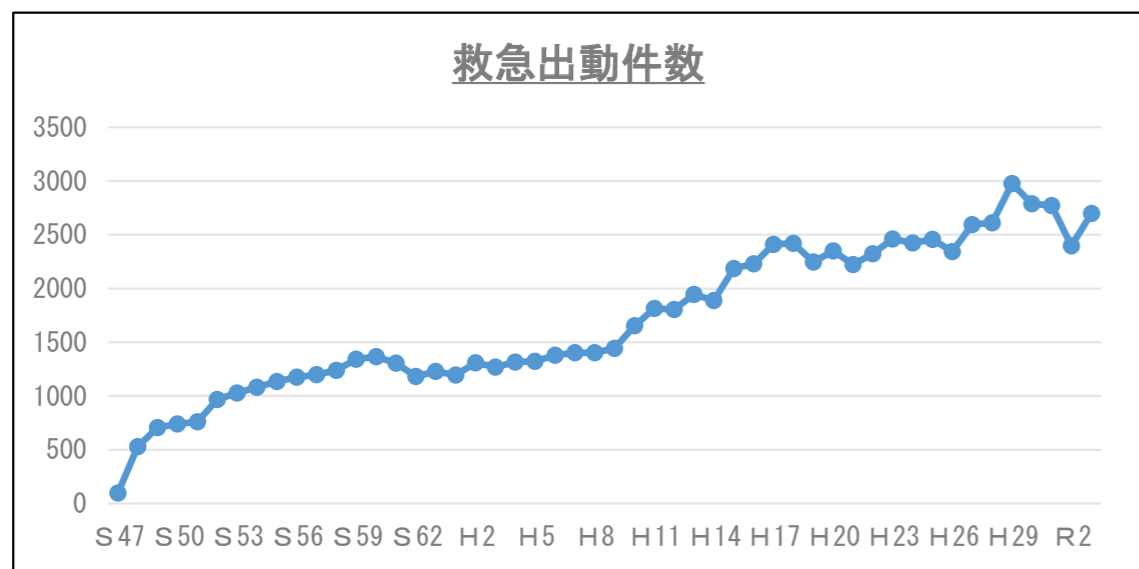
高度救急処置訓練



救急総合訓練



救命講習

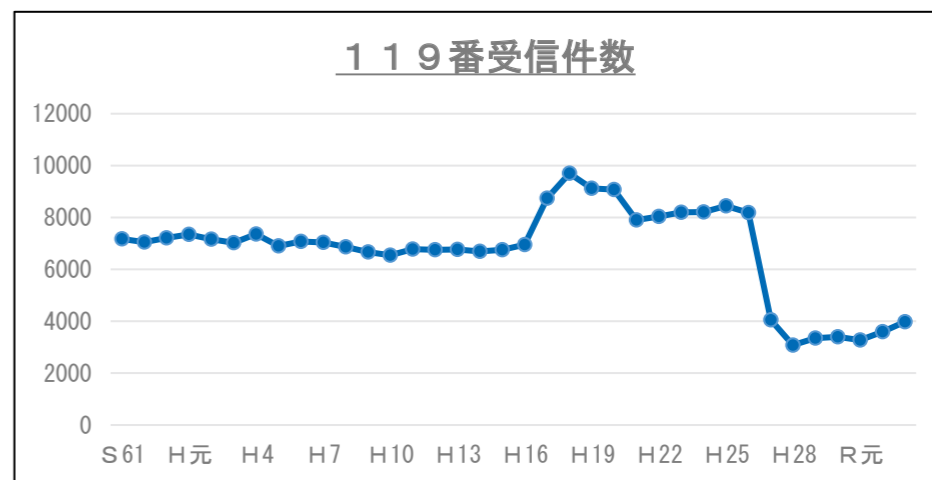


通信指令

発生した災害（火災・救助・救急等）の119番通報を受信し、その災害に対して必要な車両を出動させるとともに、災害現場に必要な情報を収集し出動隊へ伝達することにより、円滑な現場活動をサポートしています。



119番通報受信から現場到着までの流れ



予 防

予防業務は、火災を未然に防ぎ、火災を起こさせない建物や環境を整えるために、消防法等に基づき、防火対象物や危険物施設の防火対策が講じられるように、立入検査や、行政指導等を行います。また、企業、関係団体や地域住民と協力して、火災予防の推進を図り、安心安全なまちづくりを目指しています。

火災が発生した際には、火災原因調査を行い、火災原因を特定することにより類似火災の発生防止に努め、火災防止啓発活動に生かしています。



立入検査



タンクローリー検査



消防設備設置検査



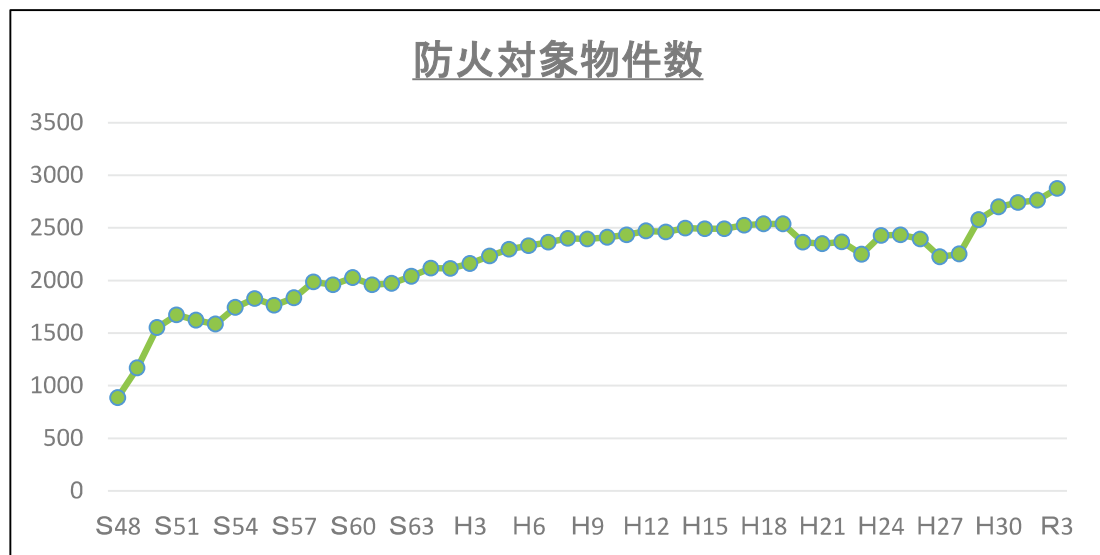
防火啓発活動



火災予防運動に伴う広報活動



起震車体験



高島市消防団

消防団の歴史は古く、江戸時代、八代将軍吉宗が、江戸南町奉行の大岡越前守に命じ、町組織としての火消組である店火消（たなびけし）を編成替えし、町火消「いろは四八組」を設置させたことが、今日の消防団の前身であるといわれています。昭和22年に「消防団令（勅令）」が制定され、それまでの警防団を廃止して消防団となり、これにより消防団は警察の内部組織から市町村の任意設置機関となりました。翌年の昭和23年には消防組織法に基づき「消防団令（政令）」が制定され、市町村が管理する自治体消防の機関として、その地位が明確に位置づけられることとなり、今日まで続く消防団の輝かしい伝統が始まりを告げました。

あゆみ

- ◇平成17年 1月 市町村合併により高島市誕生、高島市消防団発足
初代統括団長 松井 乾氏就任
初代団長 伊庭 孝氏就任
- ◇平成19年 1月
- ◇平成20年 10月 女性消防団員誕生（2名）
- ◇平成22年 2月 消防団等地域活動表彰を受章（消防庁長官）
- 4月 第2代団長 采野 哲平氏就任
- ◇平成23年 1月 多機能型消防車交付（日本消防協会）
- ◇平成24年 4月 第3代団長 井川 正一氏就任
- ◇平成26年 2月 防災功労者消防庁長官表彰を受章（消防庁長官）
- 3月 小型動力ポンプ軽積載車無償貸付（総務省消防庁）
- 4月 第4代団長 宮野 正博氏就任
水防功労者表彰を受章（全国水防管理団体連合会）
- 6月 入団促進功労総務大臣感謝状を授与（総務大臣）
- 9月 内閣総理大臣表彰を受章
（平成25年台風18号災害対応功績）
- ◇平成27年 1月 消防ポンプ自動車（CD-1型）無償貸付（総務省消防庁）
- ◇平成29年 5月 軽可搬消防ポンプ購入（D-1級）
- ◇平成28年 4月 第5代団長 土藏 伊左雄氏就任
- ◇平成30年 4月 第6代団長 川内 和洋氏就任
- ◇令和元年 11月 第24回全国女性消防操法大会出場（横浜市）
- ◇令和2年 4月 第7代団長 山崎 正富氏就任
- ◇令和4年 4月 第8代団長 荒木 保秀氏就任



高島市防火保安協会

高島市防火保安協会は、高島市消防本部及び高島市消防団と緊密な連携のもとに消防および防火思想の普及宣伝、火災災害の防止等を目的に会員事業所とともに活動を行っています。

●●● あ ゆ み ●●●

- ◇昭和 52年 12月 8日 第1回設立準備代表者会議
- ◇昭和 53年 2月 8日 第2回設立準備代表者会議
- 4月12日 設立総会
- ◇昭和 59年 3月 1日 1日消防官防火キャンペーン（毎年開催）
- ◇昭和 62年 2月26日 第1回防火ポスター展（毎年開催）
- ◇昭和 63年 5月27日 創立10周年記念式典
- ◇平成 2年 11月19日 第1回自衛消防隊消防操法大会（毎年開催）
- ◇平成10年10月22日 創立20周年記念式典
- ◇平成17年 1月 1日 高島郡5町1村が合併し高島市となる
名称を湖西防火保安協会から高島市防火保安協会に変更
- ◇平成20年10月11日 創立30周年記念式典
- ◇平成25年 3月 1日 株式会社ナエムラ自工よりミニ消防車の寄贈
- ◇平成30年10月13日 創立40周年記念式典

○年間を通じて、初期消火訓練・防火広報用品資器材の補助、消防署見学園児・児童への広報用品配布を行っています。

歴代会長

初代	昭和53年4月26日～昭和59年6月5日	桜田 甚 祐
2代	昭和59年6月5日～平成3年5月23日	松本 貢 一
3代	平成3年5月23日～平成5年4月21日	河原田 藤 一
4代	平成5年4月21日～平成23年5月24日	石田 幸 雄
5代	平成23年5月24日～令和元年5月16日	岸田 定
6代	令和元年5月16日～	吉田 近 博

会員数（令和4年4月1日現在）7業界（168事業所）、146事業所 計：314事業所



自衛消防隊消防操法大会



ミニ消防車



防火ポスター展



防火キャンペーン

あ と が き

この度、消防本部発足50周年という節目の年を迎えるにあたり記念誌を作成いたしました。昭和47年4月に発足し、9月に業務運用を行い現在の消防の礎を築いていただきました第1期生の皆様の想像を超える『災害に備える』という大変な努力を重ねられたと感じる次第でございます。

編集に際しましては、当本部のあゆみをはじめ各種訓練、災害対応などの写真や資料収集を主に編集作業に取り組み、ようやく本誌の完成に至りました。

本誌の内容につきましては、50年間で数枚で表現するのが難しく、意を尽くせなかったところもありますがご容赦いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが本誌の編集に際しましてご協力いただきました皆様方に心から感謝を申し上げますとともに今後ともご支援ご指導くださいますようお願いいたしまして、あとがきとさせていただきます。





発行 令和4年9月
編集 高島市消防本部 消防総務課
発行 高島市消防本部